

令和7年度

山形県発掘調査速報会



令和8年3月8日(日)

13:00 ~ 16:00

東根市公益文化施設 まなびあテラス

令和7年度 山形県発掘調査速報会

主催 山形県 公益財団法人山形県埋蔵文化財センター
 共催 山形市 南陽市教育委員会
 日時 令和8年3月8日(日) 13:00～
 会場 東根市公益文化施設 まなびあテラス 市民ギャラリー

- 12:00 開場・展示遺物の見学
- 13:00 開会
- 13:05 令和7年度の県内の発掘調査の概要について(山形県)
- 13:20 報告① 生石2遺跡(東北芸術工科大学)
- 13:45 報告② 長岡南森遺跡(南陽市教育委員会)
- 14:10 報告③ 東原遺跡(山形県埋蔵文化財センター)
- 14:35 休憩・展示遺物の見学
- 14:55 報告④ 史跡山形城跡(山形市)
- 15:20 報告⑤ 飯田館跡(山形県埋蔵文化財センター)
- 15:45 質疑応答
- 16:00 閉会



発掘調査速報会報告遺跡一覧

遺跡名	調査回数	所在地	種別	時代	調査面積	調査日程	起因事業
生石2遺跡	第5次	酒田市	集落跡	弥生・奈良・平安	50㎡	9月7日～9月13日	学術調査
長岡南森遺跡	第8次	南陽市	集落跡ほか	旧石器・縄文・弥生・古墳・平安・中世	101.2㎡	5月8日～7月11日	保存目的確認事業
東原遺跡		東根市	集落跡	平安	2,810㎡	5月12日～10月31日	道路改築事業 主要地方道山形天童線成生工区
史跡山形城跡		山形市	城館跡	近世	1,350㎡	5月15日～12月26日	史跡整備事業
飯田館跡		山形市	城館跡	中世・近世	1,060㎡	7月8日～11月14日	飯田土砂災害対策事業 (防災安全・急傾斜)
馬神昭和新田遺跡		朝日町	集落跡	縄文	730㎡	5月8日～8月8日	交通安全道路事業 主要地方道長井大江線大谷工区
馳上遺跡		米沢市	集落跡	古墳・奈良・平安・中世	144.69㎡	7月22日～8月22日	個人住宅建設
台ノ上遺跡	第18次	米沢市	集落跡	縄文	59.2㎡	11月27日～12月19日	個人住宅建設
史跡左沢楯山城跡		大江町	城館跡	中世・近世	33㎡	7月10日～8月20日	史跡整備事業
史跡山居倉庫		酒田市	倉庫跡	明治時代	15.75㎡	7月22日～8月13日	史跡整備事業(建物耐震診断)

東北芸術工科大学では酒田市の協力のもと、2020年度から「庄内地方の特性に基づく遺跡・遺物の活用の研究」を開始し、縄文～弥生時代を対象にした遺跡の調査・研究と現代における活用方法を探ることを目的として生石2遺跡の発掘調査を実施している。

過去4次にわたる試掘調査では、標高15.5～16mの比較的高い部分から古代の遺物の出土と溝状遺構を検出し、標高13.8～14.0mの低地部分からは古代の遺物に加えて弥生土器が出土した。また、古代の層の下部には矢流川の氾濫により形成された堆積物を確認し、当該地形の形成過程の一端を明らかにしてきた。そこで、今年度は昨年度と同じ低地部分の10m×5mの範囲を掘削し、弥生時代以前の遺構・遺物を確認することに努めた。

調査区は低湿地であるために、重機で掘削すると水が湧き出てくることから、ポンプによる排水を行いつつ調査を実施した。

これまでの調査で古代の遺物が集中していた調査区北側では、掘立柱跡・柱穴・土坑を検出した。掘立柱跡は南北方向に長軸を持つ。調査区東側では、壁面にサブトレンチを設定して土層を確認したところ、北側では弥生土器の包含層を2層確認し、南側では8世紀代の

土師器の坏などが集中して出土した。

遺物は大半が土器の破片である。時期が明確な遺物としては、弥生時代中期前葉の鉢や弥生時代後期の甕の破片などが出土している。古代の土器は8世紀代の遺物が中心である。

調査はわずか7日間であったが、古代の包含層は概ね調査を終えたため、次年度以降に下位の地層の掘削を行うこととした。

調査最終日の9月13日には現地説明会を開催し、約15名の市民・研究者などの参加があった。

なお、当学術調査は大学の発掘実習を兼ねており、歴史遺産学科および文化財保存修復学科の学生27名が参加して行った。

（佐藤祐輔）



調査区南側の土師器出土状況



掘立柱完掘状況



現地説明会の様子

長岡南森遺跡は南陽市長岡地区の南森丘陵に立地する古墳時代を主とする遺跡である。平成28年度の測量調査で城館跡や古墳を思わせる地形が確認され、遺跡の実態解明のため平成30年度から確認調査を実施している。これまでの調査結果から、丘陵上に営まれた古墳時代の重要な集落遺跡であることが明らかになった。第8次調査となる今年度は、これまでに確認された丘陵頂部の住居跡を中心に遺構の補足調査を実施した。

丘陵頂部のT20aでは住居構造把握のため、^{たてあな}竪穴住居の面的な調査を行った。昨年度までは古墳時代の住居が2棟重複するものと考えられたが、住居は7号住居跡のみであることが明らかになった。規模は一片約7.6mで、^{すみまるほうけい}隅丸方形の形をとる。住居の床面から柱穴が検出され4本柱とみられ、住居の壁付近からは壁溝が検出された。また7号住居は古代の溝や土坑等に切られることが確認された。

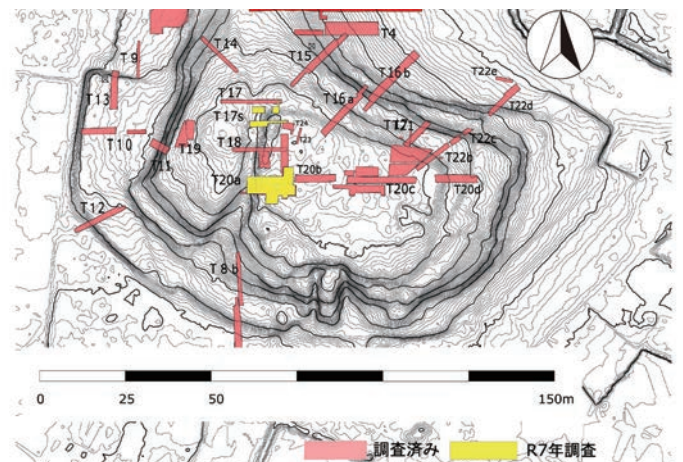
T17sの頂部の北西斜面裾では、^{みぞあと}溝跡SD9、10が検出された。SD10は古墳時代の溝の可能性があり、裾部を巡ると考えられる。SD9はSD10より上層の層から掘り込まれるため、新しい溝であることが明らかになった。



T20a 7号住居跡
床面検出後のオルソ画像

丘陵頂部肩では新旧二時期の盛土を検出した。新盛土は近世にSD10を掘り直した際に盛られたもので、旧盛土は古墳時代に旧表土上に盛土（整地）されているとみている。出土遺物は7号住居内から、器台や小型丸底壺、T17の旧盛土内から古墳時代の土師器片が出土したほか、古代の土坑内から土師器の長胴甕や須恵器の坏が出土した。

今年度にこれまでに出土した土器の検討会を実施した。その結果、古墳時代の前期前半から遺跡の利用が始まり、前期後半の資料が中心となることや、北陸系の土器と太平洋側の土器要素が混在し、会津盆地の文化様相と似ることが明らかになった。（齊藤紘輝）



長岡南森遺跡調査区

今年度はT17s、T20a(調査区)を調査した。



T17s 丘陵頂部の北西肩部と斜面裾部
新旧盛土と裾部の溝跡 (SD9、10)

東原遺跡は東根市南西部の大富地区おおとみにあり、乱川扇状地面みだれがわに立地する。令和6年、東根市教育委員会による発見通知を機に新規登録された遺跡である。山形天童線を延伸する道路改築事業に伴い発掘調査を行った。今年度の調査では2つの調査区を設定し、大富中学校南西の交差点を挟んで南を1区、北を2区とした。調査地点は概ね平坦ながら北東部と南東部にわずかに緩やかな高まりがみられる地形となっており、扇状地面上に形成された乱川の河道跡かどうあと（かつての川筋）にあたる。

現在果樹園や畑として利用されている地表面の耕作土と乱川の氾濫はんらんによって運ばれたと考えられる均質な砂質土の下に奈良・平安時代の土器片を大量に含む土層（遺物包含層）の堆積が確認された。今年度の調査は遺物包含層の掘削を中心に行った。遺物包含層の下層で多くの遺構が検出されているが、その大部分の精査は来年度実施予定である。

1区では土師器・須恵器片が大量に出土しており、一括廃棄と考えられる集中地点たてあなが複数箇所確認された。主な遺構として竪穴建物や土坑・柱穴・ピット・溝が見つかった。竪穴建物は検出のみのものが大半だが可能性があるものを含めて20棟以上が確認された。このうち北側で検出した竪穴建物のひとつを



東原遺跡発掘調査区とその周辺（南から撮影）

掘り下げたところ、残存状態が良く床面近くから鉄滓てつさいや鞆ふいごの羽口片はぐちなど鍛冶かじに関連する遺物が多数出土した。その他に炭・焼土を含む歪いびつな形の落ち込みがあちこちで見つかった。埋まりかけた竪穴建物の上部で検出されたものや窪地の一部を人為的に掘り込んでいるものがある。落ち込みからは接合する土師器片がまとまって出土する傾向があった。

2区では調査区南端で床面に溝を有する竪穴建物の一部とピットを検出した。2区の遺構・遺物は1区に比べて極めて少なく、調査区の北側では見つからなかった。遺跡範囲の北限を示すものと考えられる。

今後、遺構の精査と出土遺物の整理を通じて当遺跡の性格や周辺遺跡との関連を明らかにしていきたい。（結城駿）



竪穴建物跡出土鍛冶関連遺物（左：鉄滓、右：鞆羽口）



炭・焼土を含む落ち込みには複数の焼土面が残るため、繰り返し火を焚いた場所であると考えられる

山形城跡の発掘調査は史跡整備に伴うもので、令和7年度は本丸北堀及び東堀土塁跡の発掘調査と、二ノ丸東側及び西側の整備事業に係る発掘調査を行った。

本丸東堀土塁跡では北堀同様に土塁裾に「瓦捨て場」を検出した。瓦は一括廃棄であることを示していた。黒シャチ瓦破片及び黒鬼瓦・赤鬼瓦破片を含むため、本丸土塁上の「良ノ方櫓」うしとらのかたやぐらに由来する瓦群と考えられる。

瓦の背後には「護岸石垣」が出現した。本丸土塁の裾部に高さ70～80cmの玉石積みで築かれ、石の平らな面を表面に配置し石垣全体が平滑化する志向がうかがえる。この瓦捨て場からやや離れた堀底から黒鬼瓦が堀底に接する状態で出土した。文様は「違い羽」で、初めての文様である。形態から下り棟むねにつくやや小振りの鬼瓦である。文様は城主家紋に直接関係はなく、年代は不明である。

二ノ丸は、花見広場調査区は2本のトレンチで約250㎡を調査した。北東側のトレンチは近現代のカクランが深く、城郭関連の遺構の検出には至らなかった。

南西側のトレンチでは近世後期の石列1条と瓦捨て場を検出した。黒瓦(平瓦・丸瓦・軒丸瓦)が大半を占めるが、赤瓦(平瓦・丸瓦・軒丸瓦)や礫も見られる。トレンチ西端では現況地表から約0.9m下で焼土粒と炭物を多量

に含む層を確認した。近世初頭の肥前・唐津の破片を含む。焼土粒は他所の火災焼土を破棄した痕跡と思われる。

遊びの広場調査区は3本のトレンチで約400㎡を調査し、近世初頭の石列3条と古代～中世の土坑を検出した。石列は現況地表より1.5m前後の深さで確認した。2段に組まれ裏込め石で補強するものもある。軸は北西から南東軸が2条、北東から南西軸が1条である。また、石列を検出した東側トレンチのやや上位堆積の諸層からは瀬戸美濃(16C末～17C初頭)の碗皿類が出土した。最上氏時代の近世初頭の二ノ丸西部は、二ノ丸北門周辺の現況よりも地盤が低いことがわかった。古代～中世の土坑は西側トレンチの約1.4m下で検出した。灰白色ブロックを多量に含む。土坑を検出した層からは須恵器片や青磁片が出土している。
(五十嵐貴久)



「違い羽」紋黒鬼瓦(正面)



本丸東堀瓦捨て場の調査状況



本丸東土塁裾部の護岸石垣(南東から)

飯田館跡は、土砂災害防止事業に伴って行われた調査である。今年度は館跡の南側と東側の調査を行った。調査区は地形によって大きく斜面地と東側の平坦地の二つに分けている。斜面地については、安全性を鑑み全面的な調査ではなく必要箇所^{かんが}にトレンチを設定しての調査となった。

斜面地では、明確な遺構を確認することはできなかった。層序は上から腐葉土層、旧表土層、風化礫層、岩盤層であり、旧表土層の下層に褐色のシルト層が堆積している箇所も存在した。岩盤層までの堆積土の厚さは、場所により10～50cm程度である。遺物については腐葉土層と旧表土層から出土し、寛永通宝などを含め、江戸期の遺物がほとんどである。斜面地には場所により平坦地があり、堆積土は30～80cmの厚さがあった。平坦地は造成されているとみられ、造成土からは17・18世紀の肥前陶磁器が出土している。斜面から出土した遺物で古いものは17世紀のものであり、風化礫層以下からの出土はないため、館が存在した当時は風化礫層や基盤層が部分的に露出していたと考えられる。

東側の平坦地は2地区に分かれて調査をおこなった。下段の東側は畑を作るため重機により削平されていた。西側は平坦地を広げる

ため造成を行ったことが確認できた。造成土の中から17世紀前半の肥前陶器が出土している。その他に円盤状の石製品や瓦などが出土している。瓦は館跡上部の平場の裾からも出土している。

上段は岩盤を掘り込んだ柱痕や、土坑が検出された。土坑からは岩盤を削った工具痕が確認され、覆土からは砥石が多く出土している。

館跡は飯田播磨守^{はりま}が1584年以降に築城したと云われている。ただ、館跡に関する当時史料はいまのところ確認されていない。今年度の調査でも、16世紀に該当するような遺物は出土しなかった。次年度も調査が継続されるためその成果が期待される。

(渡辺和行)



東側にある平坦面の様子（東から）



斜面地の調査の様子（南西から）



近世の瓦出土状況（北西から）

馬神昭和新田遺跡は、西村山郡朝日町馬神地内にあり、最上川中流域の左岸の河岸段丘上に位置している。交通安全道路事業主要地方道長井大江線大谷工区の道路建設に伴う発掘調査である。

調査は、1万年以降に堆積したと考えられる遺物が出土する黒ボク土層（Ⅲ層）の上面まで重機で掘り下げたのち、Ⅲ層からⅣ～Ⅴ層上面まで人力で掘り下げを行った。

Ⅲ層下位のⅣ層上面では、縄文時代に掘られたと考えられる土坑3基、ピット32基の遺構が検出された。土坑SK2からは、縄文土器とともに、石器を製作した際に生じる製作くずである、珪質頁岩製の剥片やチップが密集して多量に出土した。調査区北半部からは、浅い窪地跡が検出された。検出された遺構は、丁寧に掘り下げ、写真撮影や三次元計測をして記録作業を行った。

縄文時代に堆積したⅢ層からは、上面において縄文時代晩期（約2500年前）に相当する深鉢形土器などが発見された。また、Ⅲ層の中部からは、縄文時代中期（約4500年前）に相当する浅鉢形土器や深鉢形土器、それから舟形町西ノ前遺跡から発見された国宝『縄文の女神』と類似し、かつ同様の大きさと思われる形状の西ノ前型土偶の破片が発見され

た。土偶の破片は、下腹部から背中部分で、腹部に渦巻状？の文様やへその孔が認められた。背中には、浅い縦の溝が認められた。このほか、珪質頁岩製の石匙やへら形石器、かんらん岩製磨製石斧などの石器資料が発見された。

今回の調査では、遺物包含層であるⅢ層から、縄文時代晩期と中期の遺物が多数出土することを確認した。とくに、縄文時代中期の西ノ前型土偶の発見は、町内初の発見となった。遺構については、数が少ないが、過去にこの地で生活していたヒトびとの痕跡を発見することが出来た。調査区の北半部に遺物が多く出土したことから、遺跡の中心部が今回の調査区よりも北方に存在している可能性が考えられる。（大場正善）



調査区全景（西から）



SK2 遺物出土状況（南から）



縄文土器（左）と西ノ前型土偶（右）

はせがみいせき 馳上遺跡

—縄文時代から江戸時代までの
幅広い年代の遺物が出土—

米 沢 市

馳上遺跡の発掘調査は、個人住宅建設に伴って行った。本遺跡は、米沢市教育委員会としては最初の発掘調査（第1次調査）になるが、これまで、東北中央自動車道や道の駅米沢の建設に伴い、山形県埋蔵文化財センターによって大規模な発掘調査が度々実施されており、米沢市を代表する大規模な複合遺跡として知られている。

調査では、^{たてあな} 竪穴状遺構3基、土坑7基、溝跡2条が検出された。竪穴状遺構については、当初は竪穴住居跡の可能性を視野に調査を進めたが、精査していくと、縄文時代の^{れき} 礫石器（^{くぼみいし} 凹石）、古墳時代の^{はじき} 土師器、奈良・平安時代の^{すえき} 須恵器・土師器、近世の陶磁器と、幅広い年代の遺物が出土した。そのため、近世以降に作られた遺構であることが確認された。古

い時代の遺物は、遺構が作られた際に、周辺にあった遺物が流れ込んで混入したものと思われる。土坑からは、土師器片が出土するなど、本遺跡が営まれていた年代を示す資料が確認できた。溝跡は、底面のみの検出となったため、性格や年代等の把握に至らなかった。

（佐藤智幸）



調査区完掘全景（北西から）

だいのうえいせき 台ノ上遺跡（第18次）

—わずかな範囲から
多数の縄文土器が出土—

米 沢 市

台ノ上遺跡第18次調査は、個人住宅建設に伴って行った。本遺跡は、これまでに第17次に亘って発掘調査を実施しており、約130棟もの竪穴建物跡を中心とした遺構群や膨大な数量の土器・石器等の遺物が出土している。そのことから、本遺跡は縄文時代中期中葉（^{だいぎ} 大木7・8式期）を代表する大規模な集落遺跡として全国的に知られている。

第18次調査では、竪穴状遺構2基、土坑1基、溝状遺構1条、ピット（小穴）約20基、倒木痕1基が検出された。竪穴状遺構は、住宅建設範囲の南東角と北東角のわずかな部分のみの検出であり、精査箇所が極めて狭いことから、竪穴住居跡とは判断できなかった。土坑は^{ふくど} フラスコ型土坑であり、復元可能な一括土器は出土しなかったが、覆土からは多数

の縄文土器片が出土した。溝状遺構は、幅約20cm、深さ約40cmを測り、断面形状は「V」字状になっていた。

出土遺物は縄文土器が大多数を占め、住宅建設部分の約60㎡という限られた範囲だけで数百点もの土器片が出土した。今後整理作業を進めていく予定である。（佐藤智幸）



溝状遺構完掘状況（北東から）

あてらざわたてやまじょう 史跡左沢楯山城跡

一川を臨む広大な山城一

大江町

左沢楯山城は寒河江大江氏の一族左沢氏が14世紀後半に築城したとされる。天正12年(1584年)最上氏に攻略され、元和8年(1622年)最上氏の改易後に廃城となった。「左沢氏とその一族、伊達氏、最上氏との抗争を軸に展開した村山地方の中世から近世に至る動向を知るうえで貴重な城跡」として約25haが国史跡に指定されている。城跡は最上川左岸の楯山に所在し、北と東は檜木沢、南は最上川に面した急な崖に囲まれた要害の地を占める。

令和7年度の調査は「寺屋敷」上部曲輪発掘調査の6年目(最終年度)として実施した。なお、本調査は「左沢楯山城跡保存整備検討委員会」の指導を受けながら実施しており、建物跡は同委員会の中村隼人氏、遺物は高桑登氏に検討をいただいた。調査対象地は、城内最大の面積で権威を表す曲輪「寺屋敷」の南東側上部に位置する。令和7年度は曲輪の南部で調査を行い、楯山の基盤をなす軟岩上で円形と方形の柱穴跡を確認した。

「寺屋敷」上部曲輪における6か年の調査全体では、493㎡の調査区で約340基の柱穴跡と5基の土坑、2条の布堀状遺構が確認された。柱穴跡は11棟の掘立柱建物跡と1条の堀跡を構成すると考えられる。建物は3回以上建て替えられ、これまで城内で確認された

なかで最大の規模である桁行^{けたゆき}7間の建物を含む。遺物は15世紀から近代以降の陶磁器36点が出土した。そのうち城が機能したとされる15世紀後半から16世紀のものは4点で、平成14・15年の調査とあわせると8点を数える。中国産の15・16世紀の染付皿や椀、16～17世紀の瀬戸美濃と肥前の陶磁器で、大江氏・最上氏両時代の所産のものを含む。

遺構を検出した軟岩の表面は概ね水平で平らな面であるが、全域で長さ10～20cm程度、深さ1cmから数cm程度の細かい溝や数センチ程度の方形の窪みなど、岩盤を整形した際ついたとみられる工具の痕跡が確認された。

岩盤を切り盛りして地形を造成して建物を建て、大江氏と最上氏、両方の時期にわたって活用されたことがうかがわれる。(水戸部泰子)



岩盤(軟岩)を掘り込んだ柱穴跡



岩盤に残る工具の痕跡



寺屋敷上部曲輪調査区、奥を流れるのが最上川

史跡山居倉庫は、明治26年（1893）に発足した株式会社酒田米穀取引所の付属倉庫として、明治20年代に現在の1号棟から11号棟が建設された。明治時代の米穀保管倉庫の姿をよく残していることから、令和3年3月に国史跡として指定され、今後は山居倉庫を後世まで残していくための史跡整備を行う予定である。今回の調査は、整備前の建物の耐震診断に伴い実施した。

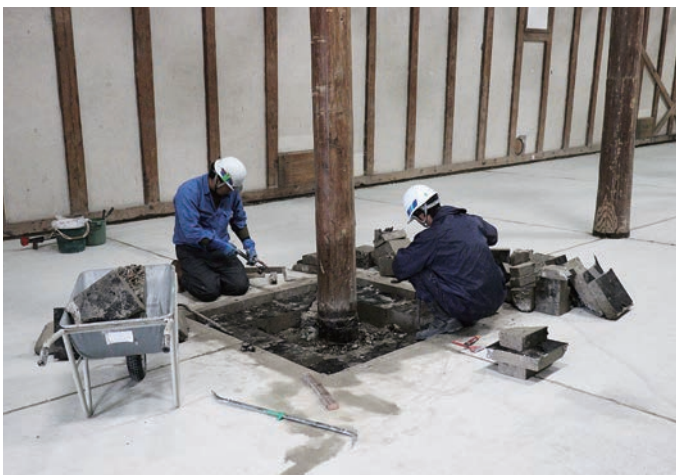
調査は、3号棟から9号棟内部で行った。各棟の独立柱のうち1本を選び、柱根本を中心に1.5m×1.5mの範囲で掘削した。内部の床面全体が土間コンクリートであることから、始めに調査範囲の土間コンクリート部分を切断、撤去した後に、下層の調査を行った。その結果、各棟で独立柱の礎石（自然石）を検出した。3～7号棟では、独立柱の基部に切石が据えられ、その下で礎石を確認した。さらに、型枠を使用せず流し込んだと推測されるコンクリートが礎石の周りを補強するように打設されていることが判明した。8・9号棟では、礎石周囲の補強は行われていない。なお、調査した各棟の独立柱の形状は、3～7号棟は角柱となっており、8・9号棟は丸太材（丸柱）となっている。各棟における基

礎周囲のコンクリート補強の有無は、独立柱の違い（角柱と丸太材）と対応している。補強工事の時期を示す記録等は残されていないが、施工法やコンクリートの製法から、明治末から昭和30年代頃の施工と推測できる。

山居倉庫は、創建から100年以上米穀保管倉庫として使用されており、その間に、機能を維持するため様々な改修が行われている。今回の建物内部の発掘調査では、新たに建物礎石部分における改修の痕跡を確認することができた。今後も継続的な調査を行い、建物や敷地内がどのように改修されたのか、その変遷過程など、山居倉庫の実態について解明していく予定である。（渡部裕司）



山居倉庫の外観（北東から）



9号棟内部の土間コンクリート撤去作業



3号棟独立柱の礎石とコンクリートによる補強

今年度報告遺跡と県内の主な遺跡・史跡の時代区分

年代	時代	今年度報告遺跡	県内の主な遺跡・史跡	山形の歴史	日本の歴史	世界の歴史	
BC30000年	旧石器時代		清水西 (村山市) 水林下 (遊佐町) 太郎水野 (金山町) お仲間林 (西川町)	山形県に人が住みつき、県内で産出する良質な頁岩で作られたナイフを使う	日本列島に人が住みつき石器を使って狩猟などをして生活する	原人 旧人 新人	
BC11000年	縄文時代	草創期	日向洞窟 (高島町) 火箱岩洞窟 (高島町) 大立洞窟 (高島町)	隆起線文土器を使う人が日向洞窟などで生活を始める	弓矢がつかわれたす土器づくりがはじまる	農耕牧畜が起こる トルコ・世界最古の都市 チャタル・ヒュヨク成立(約6000年)	
		早期	にひやく寺 (山形市) 月ノ木B (南陽市) いるかい (尾花沢市) 赤石 (村山市)	堅穴住居による小集落が形成される 漆を使って文様を描いた土器がつくられる 計画的な大集落があらわれる	縄文海進が進む 漁撈活動が盛んになる 落葉広葉樹林が広がる 磨石・石皿・凹石が多くなる 関東地方に貝塚があらわれる 三内丸山遺跡が繁栄する	とうもろこし栽培のはじまり メキシコ(約5000年)	
		前期	高瀬山 (寒河江市) 押出 (高島町) 小林A (東根市) 吹浦 (遊佐町)	堅穴住居に複式炉が作られる	環状集落が発達する		
		中期	● 馬神昭和新田(朝日町) ● 台ノ上 (米沢市)	西ノ前 (舟形町) 水木田 (最上町) 熊ノ前 (山形市) 西向 (鶴岡市)	集落が減少する	配石遺構がさかんに作られる	楔形文字が使われる(約3500年) ピラミッドが作られる(約2650年) インダス文明がおこる(約2500年)
		後期	川口 (村山市) 小山崎 (遊佐町) かっぱ (最上町) 蕨台 (酒田市)				
		晩期	宮の前 (村山市) 釜淵C (真室川町) 下叶木 (小国町) 蟹沢 (東根市)		中国製青銅刀がもたらされる	亀ヶ岡文化が栄える 九州で米づくりはじまる	殷王朝がおこる(約1600年) 孔子生誕(552年) 仏教成立(450年) アレクサンダー大王生誕(356年) 秦王朝がおこる(221年)
AD1年 300年	弥生時代	● 生石2 (酒田市)	百刈田 (南陽市) 上竹野 (大蔵村) 境田D (山形市) 堂森 (米沢市)	米づくりがはじまる 機織りはじまる	吉野ヶ里遺跡が繁栄する 邪馬台国が出現(230年頃) 環濠集落の発展	光武帝が匈奴に金印を授ける(57年) ポンペイが噴火により埋没(79年) 魏呉蜀三国時代(220年)	
	古墳時代	● 長岡南森 (南陽市)	天神森古墳 (川西町) 稲荷森古墳 (南陽市) お花山古墳 (山形市) 西沼田 (天童市) 矢馳A (鶴岡市) 嶋 (山形市)	鉄製農具がつかわれたす 県内最大の前方後円墳がつくられる 東北最大の円墳がつくられる 小規模な古墳群がつくられる 蜂子皇子・羽黒山・月山を開山(590年)	前方後円墳がつくられる 大和の土師器が全国に広まる 須恵器がつくられたす	ゲルマン民族大移動(375年) 南北朝時代(439年) ササン朝ペルシア全盛(531年) ムハンマド生誕(570年) 隋王朝がおこる(581年)	
600年	飛鳥時代		大在家 (高島町) 安久津古墳群 (高島町) 羽山古墳 (高島町) 双葉町 (山形市)	湯殿山開山(605年) 出羽郡が建都される(708年) 出羽櫓が設けられる(709年) 出羽国が建国される(712年) 出羽櫓が秋田村高清水岡に移転する(733年)	聖徳太子摂政となる(593年) 十七条憲法を制定(604年) 平城京に都をうつす(710年) 東大寺の大仏開眼(752年) 長岡京に都をうつす(784年) 平安京に都をうつす(794年) 坂上田村麻呂が蝦夷を平定 続日本紀ができる(797年) 胆沢城をつくる(802年)	マヤ文明絶頂期(600年) 唐王朝がおこる(618年) 李白・杜甫・楊貴妃らが活躍	
700年	奈良時代		壇山古窯跡群 (川西町) 大和田窯 (米沢市) 西町田下 (米沢市) 二色根古墳 (南陽市)	慈恩寺建立(746年) 出羽国大地震(850年) 立石寺が開山(860年) 鳥海山が噴火する(871年) 最上郡が二分され、最上郡と村山郡になる(886年)	平安京に都をうつす(794年) 坂上田村麻呂が蝦夷を平定 続日本紀ができる(797年) 胆沢城をつくる(802年)	カール大帝戴冠(800年) アラビアンナイト成立	
800年	平安時代	● 東原 (東根市) ● 馳上 (米沢市)	堂の前 (酒田市) 俵田 (酒田市) 古志田東 (米沢市) 八反 (東根市) 駒籠館跡 (大石田町) 堀端・拙ノ上 (長井市) 四ツ塚 (河北町) 三条 (寒河江市)	鳥海山が噴火する(871年) 最上郡が二分され、最上郡と村山郡になる(886年) 十和田火山の噴火により県内にも火山灰が降る(915年) 荘園の成立	将門・純友の乱(935・939年) 藤原氏の全盛(1016年) 前九年合戦はじまる(1051年) 後三年合戦はじまる(1083年)	高麗王朝がおこる(918年) 宋王朝がおこる(960年) 神聖ローマ帝国の成立(962年) 十字軍の時代始まる(1096年)	
1200年	鎌倉時代		上の寺 (寒河江市) 大橋 (遊佐町) 長表 (山形市) 永源寺 (天童市)	斯波兼頼が山形へ入部(1356年)	鎌倉に幕府をひらく(1192年) 南北朝の動乱(1336年) 室町に幕府をひらく(1338年)	モンゴル帝国樹立(1206年) マグナカルタ制定(1215年) ダンテが活躍 百年戦争が始まる(1337年) 明王朝がおこる(1368年)	
1400年	室町時代		柳沢A (鶴岡市) 小田島城 (東根市) 上野 (鮭川村) 蔵増押切 (天童市)			ルネサンス全盛 マゼラン世界一周(1522年) ガリレオが活躍(1564年)	
1500年	安土・桃山時代	● 左沢橋山城 (大江町)	左沢橋山城 (大江町) 天童古城 (天童市) 亀ヶ崎城 (酒田市) 谷地城 (河北町)	最上義光が最上家第11代当主となる(1570年) 義光の娘・駒姫処刑される(1595年) 出羽合戦(長谷堂合戦1600年)	種子島に鉄砲伝来(1543年) 織田信長安土城築城(1576年) 豊臣秀吉の天下統一(1590年) 関ヶ原の戦い(1600年)	東インド会社設立(1602年)	
1600年	江戸時代	● 山形城 (山形市) ● 飯田館 (山形市)	鶴ヶ岡城 (鶴岡市) 慈恩寺旧境内 (寒河江市) 米沢城 (米沢市) 飛泉寺跡 (小国町) 坂ノ上 (山形市)	最上義光没する(1614年) 最上氏改易(1622年)	徳川家康江戸に幕府をひらく(1603年)	清王朝がおこる(1636年) アメリカ独立(1776年) フランス革命(1789年) ナポレオン、フランス皇帝に即位(1804年)	
1800年	近代	● 山居倉庫 (酒田市)	文翔館 (山形市) 松ヶ岡開墾場 (鶴岡市)	上杉鷹山、米沢藩藩主に(1767年) 統一山形県成立(1876年)	大政奉還(1867年) 大日本帝国憲法発布(1889年)	リンカーンが活躍(1861年) トロイア遺跡発掘(1871年) 日清戦争(1894年)	

